

(始良郡溝辺町崎森)

### 位置と環境

桑ノ丸遺跡は、始良郡溝辺町大字崎森字桑ノ丸に所在する。溝辺町は始良カルデラの北東から北、鹿児島市街地より東北約35kmの位置で、全町の3分の2にあたる地帯がシラス台地（始良カルデラの噴出火山灰）である。遺跡地はこの溝辺町の南部の台地と谷が交互に位置する地形の舌状台地上に立地し、台地上と谷底との比高は約35m、南側はやや緩やかな傾斜とはなるものの北側は急傾斜となっている。遺跡はこの台地全体が推定されるが主体は舌状台地先端部約270mにあたる。

### 調査の経緯

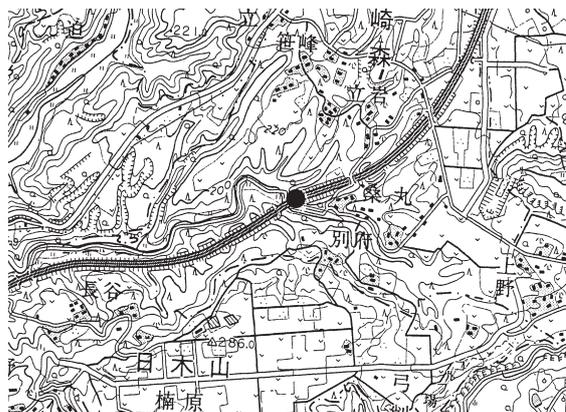
桑ノ丸遺跡は、昭和48年8月、九州縦貫自動車道建設に伴う溝辺～加治木間の分布調査で発見された。桑ノ丸遺跡は、溝辺～加治木間の17遺跡の1遺跡で、発掘調査は、県教育委員会により昭和49年8月から昭和50年4月の間に実施された。

### 遺構と遺物

桑ノ丸遺跡は、確認調査の結果、舌状の先端部から順に第1地点～第4地点の4か所に分けられる。

遺構は、第1地点で66基の近世墓群とそれに関する墓道や、成川式土器（古墳時代）を伴う炭化物を敷いた落ち込み（窯状遺構）などがある。第2地点では当遺跡出土の3類土器に伴う集石遺構2基がある。第3地点では早期層から彫り込まれた用途不明のピット4個が検出された。第4地点では奈良から平安時代の土師器包含層直下から柱穴多数が検出されている。

出土遺物は、土器と石器がある。土器は、縄文時代早期から近世までの15類がある。1類は吉田式土器、2類は前平式土器、3類は新型式（桑ノ丸式土器）、4類は押型文土器、5類は平椀式土器、6・7類は塞ノ神式土器（以上縄文早期）、8類は轟式土器（前期）、9類は阿高式土器（中期）、10類は指宿式土器、11類は西平式土器（以上後期）、12類は成川式土器（古墳時代）、13類は土師器、14類は須恵器（以上奈良・平安時代）、15類は近世陶器（竜門寺



第1図 桑ノ丸遺跡の位置

焼) などである。石器は、石鏃・石匙・スクレーパー・石斧・磨石・凹石・敲石などがある。

### 特徴

縄文早期の前平式土器は、円筒形土器と角筒形土器がセットをなし、この期の代表的資料となっている。さらに3類土器は新型式であったが、a～fの6類に細分され、本遺跡でまとまって出土したことから、「桑ノ丸式土器」と呼ばれ標識遺跡となった。

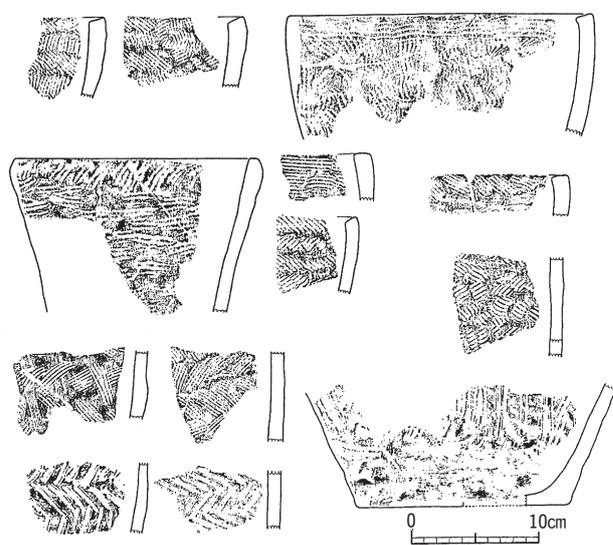
### 資料の所在

出土した遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

### 参考文献

鹿児島県教育委員会1977「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告」I『鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(7)』

(新東晃一)



第2図 桑ノ丸遺跡出土土器（桑ノ丸式土器）